

# 奈良国立文化財研究所要項

## 一 沿革

1、文化財保護法（昭和25年法律第82号）の制定によつて文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行うために、元奈良県立商工館の施設を奈良県より寄附を受けて昭和27年4月1日下記の通り発足した。

記（文化財保護法第23条第2項抜萃）

2、国立文化財研究所の名称及び位置は左の通りとする。

名称 奈良国立文化財研究所

位置 奈良市

備考 奈良国立文化財研究所の所在地は次の通りである。

奈良市春日野町五〇番地

電話奈良局五五七五

3、昭和27年度は主として寄附を受けた本館の内部を研究施設に改装することと創設準備に終始した。  
4、昭和28年5月15日、内外施設が整備したので、数多くの関係者の来臨を仰ぎ開所式を行った。

## 二 組織

文化財保護法（昭和25年法律第82号）第23条4項の規定に基づき奈良国立文化財研究所組織規程を次のように定める（昭和27年3月25日文化財保護委

員会規則第5号）（昭和29年6月29日文化財保護委員会規則第一号第一次改正）。

奈良国立文化財研究所の組織規程

（奈良国立文化財研究所の組織）

第一条 奈良国立文化財研究所の所掌事務を分掌させるため左の四室を置く。

美術工芸研究室

建造物研究室

歴史研究室

庶務室

（美術工芸研究室の所掌事務）

第二条 美術工芸研究室においては、絵画、彫刻、工芸品、書跡その他建造物以外の有形文化財並びに工芸技術に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に關する事務をつかさどる。

（建造物研究室の所掌事務）

第三条 建造物研究室においては、建造物に關する調査研究並びにその結果の普及及び活用に關する事務をつかさどる。

（歴史研究室の所掌事務）

第四条 歴史研究室においては、考古及び史跡に關する調査研究並びにその結果の普及及び活用に關する事務をつかさどる。

（庶務室の所掌事務）

第五条 庶務室においては、左の事務をつかさどる。

一、別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。  
二、公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に關すること。

三、経費及び収入の予算、決算その他会計に關すること。

四、行政財産及び物品の管理に關すること。

五、職員福利厚生に關すること。

附 則

この規則は昭和27年4月1日から施行する。

附則（昭和29年6月29日文化財保護委員会規則第一号）

この規則は、昭和29年7月1日から施行する。

## 三 調査研究の現況

昭和三十二年度研究調査概要

I 美術工芸研究室

A 西大寺教尊の研究

小林 剛 浜田 隆

杉山 二郎 岡本康子

前々より引続き行なつている西大寺教尊の研究においては、海童王寺、法華寺、道明寺、延命寺、金峯山寺、金沢文庫などを調査した。

B 俊乘房重源の研究

田沢 坦 小林 剛

杉山 二郎

俊乘房重源の研究は以前より引続いて行なつていて、その主要なものほとんど調査を終了した。本年度は『作善集』に記されていて、現在ほとんどわ

からなくなっている個所について、探索的な調査を行なった。例えば丹波高山寺附近、摂津の毘陽寺、奈良山辺の西方寺、河内谷山池の如くである。

### C 藤原彫刻の研究

小林 剛 杉山二郎

前年度に引続いて行なっているが、本年度は当麻寺講堂像、大日寺の五智如来像、永観堂の諸像、道明寺の十一面観音像、大蔵寺の薬師、地藏、毘沙門天像、峯定寺の千手観音像等を調査した。

### D 舍利塔の研究

守田公夫

舍利塔の様式的研究の一環として東大寺本坊にある舍利塔を調査した。この舍利塔は唐招提寺の金亀舍利塔の模倣で室町期の作品で、唐招提寺舍利塔研究に唯一の副資料となる遺品とみられる。

### E 厨子の研究

守田公夫

近畿地区を先づ第一段階として、その地区の諸社寺に残存する厨子の調査研究に当り、厨子の美術史的研究をする。東大寺知足院の厨子、東大寺図書館の厨子および、興福院の千体薬師厨子をその研究の一環として選り調査した。

### F 小袖 研究

守田公夫

近世初期の小袖研究の一環として京都田畑家の小袖類を調査した。これらの作品は桃山期から江戸全期にわたつての作品であるが、これらを美術史的・染織史的に研究する。

### G 請来目録の整理——安然の八家請来録を中心

奈良国立文化財研究所要項

に——

浜田 隆

安然撰述の八家請来録は平安時代初期の入唐八家の請来品を分類したものととして著名であるがその蒐集には不備があり、又現在それを整理したものもないので古写本や諸家請来目録によつて校合を加え研究の資料とする。

### H 平安時代仏教絵画の調査研究

浜田 隆

平安時代仏教絵画の代表的作品としての西大寺十二天、東寺五大尊十二天、その他の密教関係の絵画の調査を進め、その背後にある経軌・図像、及びそれらの請来者との関係などを究明すること。これと併行して顔料や彩色技法の特色をも明らかにすることを目的とする。

### I 初期真宗絵画の研究

浜田 隆

初期真宗関係絵画として、とくに地方布教に功績の多かつた存覚上人の仏画関係の事蹟を存覚袖日記を中心に分類整理し、中世の新興宗教たりし真宗の作画活動を究明し、中世仏教絵画の変遷のあり方を明らかにさせたい希望である。

### J 建造物研究室

#### I 建造物研究室

森 蘊

昭和三十一年度までは大乗院が室町時代中期のものであるとの推定で研究したが、藤原時代のものとの類似を見出したので、三十二年度には天理市永久寺其他藤原鎌倉時代庭園遺跡の実測調査を行つてその類似点を確認した。室町中期の比較例として越前、

加賀の例を調査し、又室町末の例として妙心寺退蔵院、靈雲院、近江福田寺の調査を行つて比較資料とした。

### K 解体修理に伴う調査研究（法隆寺東室）

浅野 清 杉山信三

鈴木嘉吉 工藤圭章

現存する数少ない僧房建築の一つである東室を、修理の機会をとらえて、奈良県教育委員会に協力して調査を行つた。

### L 建造物、歴史研究室

#### L 飛鳥寺発掘調査

田沢 坦 森 蘊

坪井清足 金関 惣

浅野 清 杉山信三

鈴木嘉吉 工藤圭章

飛鳥寺発掘調査は、七八月行われ、塔、北回廊、講堂の遺址が発掘された。塔では方八尺に及ぶ巨大な心礎と金銅製舍利容器および各種の舍利埋納物が発見された。推古天皇元年正月十五日(五九三AD)に納めた舍利埋納物が、一部でも検出されたことは、貴重な発見であつた。回廊は横長の矩形を画した講堂では、新しい基壇構造が発見された。

#### M 川原寺発掘調査

田沢 坦 森 蘊

坪井清足 金関 惣

浅野 清 杉山信三

鈴木嘉吉 工藤圭章

史跡川原寺の発掘調査は十一月～三月まで行われた。塔、西金堂、中門、回廊、南大門の遺址が発掘され、

中金堂の前に塔と対置された西金堂という伽藍配置が初めて確認された。また西金堂の基壇構成は、未だ例を見ない構造のものであった。西金堂の下から創建以前の溝の遺構を検出した。

IV 歴史研究室

N 興福寺所蔵古文書典籍調査

田中 稔

前年度より引続いて興福寺所蔵の古文書典籍等の調査を行い目録、調書の作製、写真撮影を行うと共に目ぼしいものの内容調査を行った。

O 高山寺聖教類調査

杉山信三 浜田 隆  
田中 稔

前年度田中が実施した調査により建築、絵画関係資料が発見された為この調査を古文書、建築、絵画各担当者が協力して行うこととした。調書の作製、写真撮影を行うと共に目ぼしいものの内容調査を行った。

P 古瓦の編年的研究

坪井清足

飛鳥寺出土瓦類の分類研究を行った。その結果我園で最初に百濟工人の指導によつて製作された瓦の実体を明確にすることが出来た。また南都元興寺の僧房であつた極楽坊の丸、平瓦との比較研究を行い、飛鳥寺より瓦類を多量に元興寺へ運搬使用したことを明らかにした。

Q 弥生式時代墓制の研究

金関 恕

下関市安岡町梶栗浜遺跡の調査をおこない、弥生式時代前期に属する4基の箱式棺、2基の石囲を発

掘した、これらの石棺、石囲はその直上の旧地表に築標、または墓域を劃する特殊な施設をともなつて

いることが認められ、弥生式時代墓制の上に新形式を加える事ができた。

V 文部省科学研究費交付金による研究

年 度	研 究 課 題	交付金の種別	研究代表者	金 額
昭和31年度	和様彫刻の形成とその発展に関する研究 天竺様の成立と影響 特に構造技法についての考察 鎌倉幕府御家人制度の研究 特に西国御家人を中心として 南無阿弥陀仏作善集の調査研究 主として造形美術に関連ある事象について	各個研究 助成補助金	小林 剛 鈴木嘉吉	100,000円 25,000円
昭和32年度		同	田 中 稔	20,000円
昭和32年度		各個研究	田 沢 坦	150,000円

四 研究 発表 表

I 講 演

A 昭和29年4月24日(於本所講堂)

平城宮跡発掘建築遺跡について 浅野 清

平城宮跡発掘出土遺物について 釣田正哉

平城宮跡出土遺物と大陸文化との関連 小泉顕夫

昭和29年5月15日(於本所講堂)

仏師運慶について 小林 剛

修学院離宮建築及庭園の復原的研究 森 蘊

昭和29年11月13日(於本所講堂)

大安寺及薬師寺の発掘 浅野 清

同出土遺物について 田中一郎

奈良高校々庭に於ける遺跡について 鈴木嘉吉

昭和30年5月21日(於本所講堂)

俊乗房重源の事蹟について 小林 剛

E 昭和30年8月20日(於現地)

平城宮跡発掘調査現地報告会

天竺様建築について 田 沢 坦

「南無阿弥陀仏作善集」について 鈴木嘉吉

昭和30年10月15日(於西大寺)

西大寺(美術工芸)調査報告講演会

興正菩薩淑尊の胎内文書について 小林 剛

舍利塔について 守田公夫

絵画について 浜田 隆

昭和30年11月16日(於本所)

平城宮跡、興福寺発掘調査報告講演会

興福寺食堂の発掘経過 浅野 清

興福寺食堂遺跡について 杉山信三

平城宮跡の発掘について 坪井清足

昭和31年5月18日(於本所)

院政時代の寺院建築 杉山信三

淑尊と舍利塔について 守田公夫

西大寺塔址発掘調査報告 坪井清足

昭和31年5月26日(於現地)

I

昭和31年5月26日(於現地)

- 飛鳥寺第一次発掘調査現地報告会  
 J 昭和31年10月20日(於元興寺極楽坊)  
 元興寺極楽坊調査報告  
 板絵に関する一考察  
 本堂について  
 聖徳太子について  
 K 昭和31年12月22日(於現地)  
 飛鳥寺第二次発掘調査現地報告会  
 L 昭和32年3月23日(於毎日新聞大阪本社講演)  
 開所五周年記念講演会  
 飛鳥寺の歴史  
 飛鳥寺の建築  
 飛鳥寺の発掘  
 映画『桂離宮』解説  
 M 昭和32年7月5日(於本所)  
 安達時顕施入の法華寺一切経について  
 光学的方法による元興寺極楽坊色彩印仏の研究  
 東大寺指図堂釈迦如来(善門作)を中心として  
 N 昭和32年7月27日(於現地)  
 飛鳥寺第三次発掘調査報告会  
 O 昭和32年12月21日(於現地)  
 川原寺第一次発掘調査報告会  
 展 観  
 A 昭和28年5月15・16日(於本所)  
 開所記念特別展観  
 一 大安寺資財帳(重文) 一巻 正暦寺藏
- 二 法隆寺資財帳 一巻 法隆寺藏  
 三 阿弥陀悔過料資財帳(重文) 一巻 東大寺藏  
 四 西大寺資財流記帳 二巻 西大寺藏  
 五 元興寺縁起(重文) 一帖 醍醐寺藏  
 六 招提寺建立縁起(重文) 一帖 同  
 七 戒律伝来記上巻 一巻 唐招提寺藏  
 八 上宮聖徳法王帝説(重文) 一巻 知恩院藏  
 九 日本国現報善惡靈異記上巻(重文) 一巻 興福寺藏  
 十 東大寺要録(重文) 十冊 東大寺藏  
 十一 東大寺統要録(重文) 九冊 同  
 十二 僧綱補任(重文) 六巻 興福寺藏  
 十三 造興福寺記 一冊 同  
 十四 建久御巡礼記 一冊 天理圖書館藏  
 十五 南都七大寺巡礼記(旧菅家本) 一冊 東京国立博物館藏  
 十六 諸寺建立次第(旧菅家本) 一冊 同  
 十七 黒草紙 一冊 兼師寺藏  
 十八 内山寺置文 一巻 東京国立博物館藏  
 B 昭和29年4月24日(於本所)  
 平城宮跡発掘調査の出土遺物  
 C 昭和29年5月15・16日(於本所)  
 仏師運慶及修学院離宮建築庭園関係資料  
 運慶資料  
 一 法華経(運慶願経)(重文) 六巻 真正極楽寺藏  
 二 同 (天和二年)  
 三 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 四 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 五 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 六 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 七 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 八 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 九 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 十 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 十一 東大寺別当次第 一冊 東大寺藏  
 十二 東大寺統要録 供養篇・建仁記(重文) 一冊 東大寺藏  
 十三 弥勒感応抄 一冊 同  
 十四 湛慶注進状 一通 来迎院藏  
 十五 東宝記第一・九 二巻 東寺藏  
 十六 東大寺八幡大菩薩法座銘  
 修学院関係古図  
 一 修学院御茶屋(下)指図(天和以前) 宮内庁書陵部藏  
 二 同 (天和二年) 同  
 三 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 四 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 五 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 六 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 七 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 八 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 九 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 十 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 十一 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 十二 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 十三 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 十四 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 十五 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 十六 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 十七 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 十八 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 十九 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同  
 二十 同 同上部分(下御茶屋詳細図) 同

- 四 同 御茶屋御池絵図(宝永六年以前) 俊乘房重源関係資料
- 五 修院御茶屋指図(享保十二年) 一 南無阿弥陀仏作善集 一卷 東大史料編纂所  
二 重源請定 一通 正倉院事務所  
三 頼朝書状写その他 一卷 筒井英俊  
四 官宜旨案 一通 浄土寺  
五 重源下文案 一卷 同  
六 浄土寺開祖伝 一卷 同  
七 東大寺三綱大法師等愁状 一卷 筒井英俊  
八 一宮造替神殿宝物等目録 一卷 国祖神社  
九 東大寺領周防国宮野庄田嶋等立券文(重文) 一卷 上司 晃
- 六 同 上下御茶屋絵図 同  
七 同 御茶屋(朱宮御所)指図 同  
八 同 林丘寺宮御指図(写) 同  
九 永谷御幸御茶屋図(正保四年十月) 宮内庁書陵部蔵  
十 岩倉御殿御屋敷惣絵図 同  
十一 岩倉法皇様御殿指図 同  
十二 岩倉女院様御殿指図 同  
十三 延宝五年女院御所指図 同  
十四 延宝五年女院御所奥御対面所指図 同  
十五 修学院下御茶屋御庭模様取絵図 同  
十六 仙洞女院御所御指図(寛永寛文年間) 同  
十七 止々齋御茶屋指図(天保三十年) 同  
十八 仙洞御所大御庭止々齋作庭図(天保二十年) 同
- D 昭和29年8月2・3日(於本所)  
奈良県下において調査した能面の展覧
- 一 柳生水間八幡神社能面 七面  
二 同 丹生神社 能面・題目立 九  
三 同 八坂神社 能面・側次 五  
E 昭和29年11月13日(於本所)  
大安寺及薬師寺の発掘調査出土遺物
- F 昭和30年5月20・21日(於本所)  
その他
- 一 重源法華経勸進状 一卷 東大寺  
二 院序下文 一卷 随心院  
三 金光明最勝王經第九卷 一卷 根来喜信  
その他拓本、写真等十七件
- G 昭和30年10月15日(於西大寺)  
西大寺寂尊胎内文書、伊勢神宮御正躰、舍利塔  
その他
- H 昭和30年11月16日(於本所)  
平城宮跡及び興福寺食堂跡発掘出土品  
I 昭和31年5月18日(於本所)  
寂尊伝記集成関係史料、西大寺塔址発掘出土品  
寂尊資料
- 一 金剛仏子寂尊感身学正記 一冊 西大寺  
二 興正菩薩行実年譜 五冊 同  
三 西大寺田園目録 一卷 同  
四 寂尊願文 一幅 同  
五 宝治二年将来三大部配分状 一卷 海竜王寺  
六 聖徳太子講式 一卷 西大寺  
七 寂尊書状 一通 同  
八 同 同  
九 伝法灌頂三昧耶戒詮要私記 一卷 西大寺  
十 法華寺舍利縁起 一卷 橋本凝胤  
十一 梵網經古述記科文 一卷 唐招提寺  
十二 慈氏菩薩念誦次第 一帖 西大寺  
十三 如法愛染王法次第 一帖 同  
十四 根本説一切有部毗奈耶卷十七 一卷 同  
十五 金剛界梵漢私鏡第七 一帖 同  
十六 同 第八 一帖 同  
十七 寂尊書状 一通 同  
十八 同 (せんずのんの宛) 一通 筒井英俊  
十九 般若寺優填王善哉童子造立記 一卷 般若寺

参考資料

- 一 僧叙海、叙尊等連署売卷 一通 東大寺
- 二 具支灌頂儀式写 一卷 元興寺
- 三 海竜王寺規式 一卷 海竜王寺
- その他舍利塔等の写真八葉
- 西大寺塔址発掘品
- 一 三彩権先飾板 十一点
- 二 埴 仏 一点
- 三 瓦、土器類
- J 昭和31年5月26日(於現地)  
飛鳥寺第一次発掘出土品
- K 昭和31年10月20日(於元興寺極楽坊)  
元興寺極楽坊所蔵の諸資料
- L 昭和31年12月22日(於現地)  
飛鳥寺第二次発掘出土品
- M 昭和32年3月23日(於毎日新聞大阪本社)  
飛鳥寺発掘出土品
- N 昭和32年7月5日(於本所)  
映画『桂離宮』公開
- 法華寺一切経、元興寺極楽坊印仏、東大寺指図  
一堂釈迦如来像
- O 昭和32年7月27日(於現地)  
飛鳥寺塔址出土舍利埋納物
- P 昭和32年12月21日(於現地)  
川原寺第一次発掘出土品

五 資料及び図書

書 六、五一一册  
真 一五、五五七枚

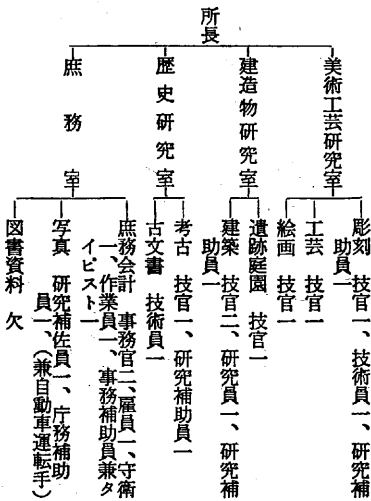
六 予 算

年度	人件費	物件費	計
昭和三十一年度	七、三六、五〇〇	六、六、一、〇〇〇	一三、九七、五〇〇
昭和三十一年度	八、三三、〇〇〇	五、六、四、〇〇〇	一三、九七、〇〇〇

七 施 設

土地  
建築物  
本館 木造二階建 三六坪  
書庫 鉄筋コンクリート造 三坪  
写真室及遺物整理室 木造平家建 六坪  
宿直室 木造平家建 一七坪  
倉庫及附属建物 三坪  
延坪 三坪  
延坪 三坪  
延坪 三坪

八 機構及び人員の構成



九 職 員

所 属	氏 名	官 職 名	担 当
美術工芸研究室	田沢 坦	文部技官 所長	(彫刻)
	小林 剛	同	(工芸)
建造物研究室	守田 公夫	同	(絵画)
	浜田 隆	同	(彫刻)
	岡本 康子	技術員	(彫刻)
	杉山 二郎	研究補助員	(建築)
	森 蘊	文部技官 室長(遺址庭園)	(同)
	杉山 信三	同	(同)
	鈴木 嘉吉	同	(同)
	浅野 清	研究員(大阪市立大学教授)	(同)
	工藤 圭章	研究補助員	(同)
	田沢 坦	室長(兼)	(考古)
歴史研究室	坪井 清足	文部技官	(古文書)
	田中 稔	技術員	(考古)
	金 関 恕	研究補助員	(考古)
	森川 幸男	文部事務官 室長	統括庶務
	紺野 栄	同 係長	庶務
庶務室	坂口 義尚	同	同
	丹阪 信次	同	同
	横田 辰次郎	研究補佐員(非常勤)	作業員
	渡辺 衆芳	研究補佐員	写 真
	本田 敏昭	庁務補助員	写 真
庶務室	横田 靖子	事務補助員	写 真
			運 転 手